

中土佐町地域公共交通協議会

地域内フィーダー系統
事業評価(令和3年度)

中土佐町基礎データ

合併状況:平成18年1月に1町1村が合併
人口:6,283人(令和3年12月現在)
面積:193.21平方キロメートル

地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

別添1-2参照

中土佐町における主な公共交通概要

○鉄道:JR四国(土讃線)

○バス

(幹線)

①窪川駅を起点とし、四万十町と中土佐町主要施設を
経由する民間事業路線

②須崎を起点とし、中土佐町矢井賀を経由する民間事
業路線

(フィーダー)

・令和3年度地域内フィーダー系統として町内を運行して
いるコミュニティバスは、全7路線

久礼地区では、土佐久礼駅を起点に3路線が運行

大野見地区では、大野見保健福祉センターを起点に3
路線が運行している。

上ノ加江地区では、上ノ加江診療所前を起点に1路線
が運行している。

・フィーダー系統

①萩原・大野線

②楠ノ川線

③長沢・大坂線

④下ル川線

⑤萩中線

⑥高樋線

⑦上ノ加江線

中土佐町の公共交通ネットワーク図



中土佐町地域公共交通協議会

地域内フィーダー系統
事業評価(令和3年度)

協議会の構成員

高知県 中土佐町 町内利用者代表
高知高陵交通(株) (株)四万十交通
(有)中土佐ハイヤー (社)高知県バス協会
高知運輸支局 須崎警察署

前年度の事業評価における課題

利用者が極端に少ない路線や当面の間利用が見込まれない区間の運行休止や乗り入れニーズのある地区への乗り入れなど、路線再編をはじめとした地域の移動ニーズに合わせて柔軟な運行を行っていく必要がある。

また、新型コロナウイルス感染防止対策を行いつつ、未利用者に公共交通を知ってもらい、利用してもらえるように、福祉部門の高齢者外出支援策との連携する取組みを検討する必要がある。

定量的な目標・効果

(目標)

目標1:コミュニティバスの年間利用者数が、前年度実績を下回らない。

- ・系統①・③は、1日当たりの利用者数を8人以上
- ・系統②は、1日当たりの利用者数を7人以上
- ・系統④・⑤・⑥は、1日当たりの利用者数を9人以上
- ・系統⑦は、1日当たりの利用者数を10人以上

目標2:コミュニティバスと路線バスの町内における年間乗降者数が、前年度実績を下回らない。

目標3:高齢者を対象としたお出かけイベントの定期開催の参加者数を前年度と比較して5%以上増加させる。

目標4:「ICカードですか」を所有する人の数を、前年度と比較して5%を超えて増加させる。

(効果)

各系統の運行を維持することで、中山間地域の高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段が確保される。

幹線系統の路線バスと連携することにより、広域的な移動における利便性が向上する。

フィーダー系統図



①、②、③は、土佐久礼駅を起点として、久礼地区中心部は経路を共有して運行。

④、⑤、⑥は、大野見を起点として、萩中―大野見間は経路・ダイヤを共有して運行。

⑦は上ノ加江を起点として運行。

「定量的な目標・効果」達成のための具体的な取組

- ・平成31年3月に策定した地域公共交通網形成計画の具体的施策に準ずるかたちで地区別意見交換会を行った。
- ・過去に利用者が低迷し、運行を休止していた大野地区において運行を再開した。(地区からの要請に伴い、調査を経た上で実施)
- ・地区別意見交換会の利用者ニーズを共有し対応方法を検討するため、交通各社との調整会議(中土佐町バス路線運行ダイヤ調整会議)を行った。
- ・地域公共交通会議を令和3年6月に開催し、今後のフィーダー系統各路線の維持・再編について協議を行った。
- ・中土佐町地域公共網形成計画に沿って関係各所(社会福祉協議会、健康福祉課、上ノ加江小学校など)と協働するための打合せを行った。

自己評価

事業実施の適切性

- ・町内を運行するバス事業者との調整を経て、乗り換えを意識した路線バス運行ダイヤおよび運行ルートの設定をおこなった。
- ・一部の地域での地区別意見交換会の開催はできたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、公共交通利用者懇談会、高齢者を対象としたお出かけイベントは昨年度に引き続き実施できなかった。
- ・役場庁舎の移転に伴う路線の変更に合わせて、すべての公共交通を網羅した時刻表冊子の作成を行った。
- ・高齢者の買い物・通院等への移動手段として機能した。

「定量的な目標・効果」の達成状況

目標1(コミュニティバスの年間利用者数が、前年度実績を下回らない)は、路線の変更があったため単純な比較はできないが路線別には以下の達成状況となった。

- ・系統 ①萩原・大野線、③長沢・大坂線、⑥高樋線 :年間を通して利用者数が目標値に対し60%~80%と利用が少ない状況にある。
- ・系統 ②楠ノ川線、④下ル川線、⑤萩中線、⑦上ノ加江線 :年間を通して利用者数が目標値に対し100%以上の利用率を確保できている。
- ・7系統中4系統は目標値を達成しているものの、3路線では目標値に達していない。依然として利用が伸びない路線が存在しており、再編の検討が必要となっている。町民の移動手段となる公共交通を維持するために、今後バス乗り方教室の開催やコミュニティバスの説明会など利用促進の取組みを進めていく必要がある。

目標2(コミュニティバスと路線バスの町内における年間乗降者数が、前年度実績を下回らない。)は、コミュニティバスの路線変更があったため、単純な比較はできないが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響などにより路線バスの利用者数も減少している。

目標3(高齢者を対象としたお出かけイベントの定期開催の参加者数を前年度と比較して5%以上増加させる。)は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により未実施となった。

目標4(「ICカードですか」を所有する人の数を、前年度と比較して5%を超えて増加させる。)は、目標値78人に対して、93人(小児用:3人、大人用:80人、65歳以上用:10人)となっており、目標値を達成している。

今後の事業に向けた改善点

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、高齢者が外出を控える傾向にあったこと、加えて感染症拡大により、利用者懇談会、高齢者を対象としたお出かけイベントなど利用促進につなげる取組みが開催できなかったこと等の理由から、新たな利用者を生み出す取組みが行えなかった。

今後は、地域の移動ニーズを継続的にヒアリングし可能な限りニーズに対応して利用者の利便性向上に努めるとともに、対応できないニーズについては利用者に理解してもらえるよう説明を行っていく。

並行して、新型コロナウイルス感染防止対策を行いつつ、未利用者に公共交通を知ってもらい、利用してもらえるように、福祉部門や外部団体との協働による利用者のすそ野を広げる取組みを展開していく。

その他PRポイント

役場庁舎の高台移転に合わせて、中土佐町役場停留所をすべての路線バスのハブポイント(乗り換え拠点)とする路線変更を行った。また、町内を運行するすべての路線バス(コミュニティバスを含む)を網羅した時刻表冊子の作成を行った。